2026 年度 神戸東支部代議員・理事連絡会 議事録

開催日：2026 年 10 月 27 日（火）

開催場所：こうべ市民福祉交流センター 研修室

出席者：小山副会長、山口常務理事、西原理事、大塚、鈴木、畠中、松木、前川、松尾、下雅意（敬称略）

欠席者：髙本、山口（代議員、敬称略）

議題 1　新人発表会・症例検討会の運営と参加支援

新人発表会について、回復期リハビリテーション領域では患者の入れ替わりや担当症例の確保に制約があり、若手職員の負担が大きいとの意見があった。演者確保が難しい支部もあることから、支部間の合同開催を検討してはどうかとの提案があった。一方、施設によっては入職 2 年目から学会発表に取り組んでいる事例も紹介された。

後期研修における症例検討の発表時間について、初回から 30 分の発表を求めることは負担が大きいとの指摘があり、短時間の発表機会や施設内の教育段階に応じた経験の積み重ねが重要との意見が出された。新人発表会と研修会の連携、支部を越えた症例検討会の開催を推進する案も示された。

他支部における演者の募集や県学会との連携に関する取組が紹介された。また、登録理学療法士の参加費負担の軽減、県士会としての新人発表会・症例検討会の位置づけの明文化、検討のためのワーキンググループ設置について意見があった。神戸東支部の新人発表会については、約 80 演題との発言があった。

施設内や病院グループでの士会承認症例検討会の開催、急性期・回復期・生活期を横断した施設間連携、規模に応じた症例検討会の展開が提案された。キュア神戸と県士会の合同開催についても案が示され、症例検討会の継続的な運営には適切な予算措置が必要との意見があった。これらはいずれも意見・提案であり、実施決定として確認されたものではない。

一人職場など指導者や発表機会が限られる会員への支援として、臨床推論を学ぶ機会、発表手順のマニュアル、養成校との連携、学術支援用コンテンツの整備を求める意見があった。症例検討会の

アーカイブ配信については、学習支援への期待が示された一方、患者情報等の個人情報保護への配慮が必要との指摘があった。

議題 2　県士会の情報発信・広報と会員との接点

代議員・理事連絡会の内容を含む県士会活動の情報が一般会員に十分届いているか、またホームページ上の案内や情報の探しやすさについて課題が指摘された。会員向けの分かりやすい目次・案内の整備、養成校学生や施設管理者、多職種・関連団体への情報発信を充実させる提案があった。

情報発信の方法として、説明動画、短い会議紹介動画、アーカイブ、SNS、AI を活用した広報資料作成などの案が挙げられた。デジタル関連部門からは、掲載する内容や説明素材を各担当部門が作成する必要があるとの意見があった。

山口常務理事からは、媒体の選択だけでなく「何を伝えるか」を整理することが重要であり、各部門が情報を持ち寄り、発信内容を統一・調整する体制が現実的との考えが示された。研修会情報の Instagram による発信状況も紹介され、神戸東支部や東播磨支部での試行的な運用案が挙げられた。下雅意代議員からは、兵庫県学会のランチョンセミナー等の機会を活用し、県士会活動の紹介、新生涯学習制度の周知、研修会の案内、登録理学療法士制度の現状共有を行うことが提案された。会員が役員等から直接説明を聞き、活動内容や制度について理解を深められるため、SNS による発信を補完する、伝わりやすく双方向性のある広報手段となり得るとの意見であった。こうした機会は県士会運営の透明性や会員との相互理解を高めるだけでなく、学会参加の動機づけや入会・継続の促進にもつながる相乗効果が期待できるとの考えが示された。この提案に対しては、副会長・理事からも理解・賛同が示された。なお、具体的な実施方法や開催について決定したものではない。

議題 3　回復期リハビリテーション病棟の現状

回復期リハビリテーション病棟では、患者数や入退院の動向に時期的な変動があり、症例発表の機会確保や施設運営に影響するとの意見があった。また、診療報酬改定に伴う成果に関する評価の厳しさが指摘された一方、リハビリテーションと栄養の連携に係る加算等を活用した運営上の可能性についても意見が示された。個別施設の状況や制度上の効果について、会議として一律の評価・結論を示したものではない。

議題 4　MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）の策定

山口常務理事より、県士会の MVV 策定に向けたコアメンバーを募集している旨が共有された。県士会 60 周年記念式典に合わせた公表を目標として検討を進めているとの説明があった。

今後の検討・対応事項

・新人発表会・症例検討会の参加負担、発表時間、支部間合同開催および施設間連携のあり方

・士会承認症例検討会の運営支援、予算、位置づけの整理と支援資料の整備

・症例検討会の配信・アーカイブ活用に伴う個人情報保護上の課題の確認

・県士会ホームページや SNS 等の情報発信内容・担当体制・会員への周知方法の検討

・兵庫県学会のランチョンセミナー等を活用した県士会活動・新生涯学習制度・研修情報の直接的な周知方法の検討

・学生、一人職場の会員、施設管理者、多職種との接点づくり

・MVV 策定に向けたコアメンバー募集と公表準備